

長時間透析患者の就労支援－当院における三症例から－

長崎腎病院

○藤原久子 林田めぐみ 丸山祐子 宮崎健一 澤瀬健二 橋口純一郎 李
嘉明 原田孝司 船越 哲

【はじめに】

現社会における就労問題は、年々深刻化している。まして透析患者の就労問題はより厳しさを増している。その様な中、長時間透析患者の就労継続は並みだいていではない。今回当院の三症例を報告し考察していきたい。

【当院における症例】

- (症例 1) 60 歳男性、正規雇用、学校事務職長時間透析患者の就労支援。
- (症例 2) 58 歳男性、正規雇用、某大手企業勤務長時間透析患者の就労支援。
- (症例 3) 57 歳男性、学習塾経営及び講師の長時間透析患者支援。

【結果及び結果から見えてきた事】

3 症例とも就労可能とし、更に継続という結果をもたらし、三症例から見えてきた大切な共通事項。

- ① 患者自身の長時間透析に対する強い思いと強い就労意欲。
- ② スタッフは患者の強い思いに対しての理解と支援的態度。
- ③ 長時間透析患者である為に発生する問題に対し、対応できる施設体制。
- ④ 社会保障体制を中心とする社会資源の上手な引用。
- ⑤ 家族及び職場からの理解と協力を得られる体制づくり。

【まとめ】

長時間透析患者の就労は、非常に難しいが、患者、病院側、家族、職場が一体となり方向性を統一し、努力を惜しまずやる事で可能となる。又、患者自身に大きな達成感と幸福感をもたらす。つまり、長時間透析は確実に患者自身のQOLを向上させる。